

モデル事業実施前後での利用者の変化について

別紙 1

利用者	介護度	性別	実施前	実施後
A	5	男性	寂しい時に「娘のところに行く。」「もう帰りたい。」とコールを押されていた。	訪問すると「来たかね、ありがとうよ。」と話され、以前のような訴えは見られなくなった。
B	5	女性	「今日外出したよ」「あそこに誰かいるわー」等せん妄が見られる。	訪問することでの安心感により落ち着いて生活されており、「そろそろ来る頃だと思ってたわ～」とケア中のコミュニケーションを楽しみにされている。
C	4	女性	異食が見られていた。また、家族曰く、面会時には「怒ってばっかです。」とのことである。	最近では異食が無くなっており、また声掛けに対してもいつも笑顔で返答され、家族曰く、面会時には「良く笑うようになりました」とのことである。
D	4	女性	拒否が強く、陰しい表情が多い。	拒否が少なくなり、陰しい表情が多かったが現在では笑顔がみられたり、生い立ちなどを話されるようになってきている。
E	3	女性	不安があったためか、廊下に這って出てきて職員を呼ぶといった行動がある(1日あたり3~4回程度、1ヶ月あたり10日程度)	日中の定期的な訪問が増えたことで、居室内での利用者との会話が増え、安心感が生まれたのか廊下へ這って出てこられることが減ってきた。(1ヶ月あたり1回程度)
F	3	女性	普段から、何事も不安に感じておられる。	訪問時にスタッフの顔を見ると安心され、多少は不安が和らいでいる様子である。
G	3	女性	毎日のように、夕方になると睡眠剤や安定剤を希望される。	定期的な巡回によりスタッフとの会話が増え、精神的に落ち着かれたようで、安定剤の希望の訴えが減ってきた。
H	3	女性	不安のためか、廊下に這って出てきて、職員を呼ぶことがあった(1ヶ月あたり10回程度)	日中の訪問が増えたことで、安心感が生まれたのか、廊下へ這って出てこられることが減った。(1ヶ月あたり1回程度)
I	1	女性	昼夜間違われ、パジャマ姿のまま過ごされている。	訪問の度にお礼を言われたり、笑顔で話をされている。
J	1	女性	室温の感覚が無く常に居室内を暑くしていることにより、体調不良の訴えが多い。	定期的な巡回や環境整備(室温調整等)により居室内を適温に保つことで、体調不良の訴えが減ってきている。
K	5	男性	尿失禁や興奮される事があった。	定期的な巡回により尿失禁が減り、顔馴染みのスタッフによる巡回の効果で興奮も見られず、穏やかに過ごされている。
L	4	女性	本人でトイレに行っているが、下着に便が付着したまま穿いておられる事がある。	定期的な巡回により、汚染が減り環境整備が出来ている。
M	4	女性	寂しいためか相談に加え、特に用事は無い場合でも職員に居室まで来て欲しいとのコールをされる(多いときで1ヶ月あたり6~7回)	定期巡回を重ねることで、日中のコール回数が減ってきた(少ないときで1ヶ月あたり2回程度)が、モデル事業途中で死去。

モデル事業実施前後での利用者の変化について

別紙 1

利用者	介護度	性別	実施前	実施後
N	3	男性	排泄の失敗による全更衣を行うことで、衣類が不足することがある(多い日で1日あたり4~5回程度、1ヶ月あたり20日程度。)	定期的な訪問時に排泄介助を行うことで、衣類が汚染することも徐々に減って行き、現在では失敗されることがなくなっている。 ※ 定期巡回時、排泄の確認で、尿器の使用動作の確認を行った。 ※ 声かけを行うことで、少しの尿意でも排泄を行うようになられた。
O	3	男性	汚染したパットを自分で外し、リハビリパンツの交換や衣類の汚染があり更衣している。	定期的なトイレ誘導をする事でパット外しや衣類汚染が無くなり、環境整備が出来ている。
P	3	女性	尿失禁や居室にて放尿されることがあった。	トイレ誘導を行う事により、汚染が目立たなくなり(パット内汚染も含む)、環境整備が出来ている。
Q	3	男性	排泄の失敗による全更衣を行うことで、衣類が不足することがある(多い日で1日あたり4~5回程度)	定期的な訪問時に排泄介助を行うことで、衣類汚染することも徐々に減って行き、現在では失敗されることがなくなっている。
R	2	女性	使用済みのパットを居室内に置いたままにし、廊下を歩いている職員を呼び止め、職員が捨てている。	定期的な訪問するようになってからは、職員の来る時間が分かるため、職員が来るのを待ち「助かる」と話している。
S	3	女性	「蜘蛛がでた。」「水が出て部屋が水浸しになった。」等のせん妄が見られる。	全くせん妄が無くなり、穏やかに過ごされるようになっている。
T	2	女性	居室での転倒や尻もちがある。	定期的な巡回や環境整備を行うことで、尻もちの回数が減った。
U	3	男性	トイレコールが頻回であり、その他にも「ちょっと来て欲しい」との訴えが頻回。	モデル事業開始後一週間で死去。
V	1	女性	寂しさのためか、排泄の名目でのコールが日中だけで10回以上あり、職員を居室へ呼ぶことが多い。	定期巡回を重ねることで徐々にコール回数も減ってきていたが、モデル事業途中で死去。
W	1	女性	居室の環境整備を行うも「今日はいいわ、自分の好きな時にやるから」と言われることがあり、あまり受け入れてもらえてない状態である。	現在も同じ状態。
x	1	女性	血圧がとても気になる方で、1日に2~3回血圧測定をされる。また、とても話好きな方である。	現在も同じ状態。